

平成23年度 第2回 歯学教育FD／ICT活用研究委員会
議 事 概 要

I. 日 時 平成23年6月13日（月）19:00～21:00

場 所 公益社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 神原委員長、花田委員、奥村アドバイザー、藤井アドバイザー、森實アドバイザー

（事務局 井端、森下、平田）

III. 検討事項

今回は、コアカリ実現に必要なICT活用の授業モデルについて前回に引き続き検討した。

この他、参考として、国際関係学の授業モデル案を事務局から提示し、以下のような説明があった。

学生が知識を活用できないことが問題となっているため、4年間の学びを通して学びの統合を図るために、国際社会を再現するシミュレーションを展開した実習的な授業の一例となっている。学生一人ひとりが地球市民として、世界に向けて発信し、その批判、合意を得て社会的通用性のある学びを行うというものである。

そこで、授業では何を教えるべきかについては、学生に気付きを与え、学びの仕方を考えさせる講義であるべきで、医療の世界は患者本位の医療を、いかに知識、技能、態度で提供することができるかであり、それを様々な事例を用いて学生に気付かせ、学生が理解できるのがよいのではないかと事務局より提案した。

1. 授業モデル案について

(1) 歯科疾患予防を考える（齲蝕予防を中心に）

歯学教育の問題点について、歯科大学を志望した理由が医者崩れ、親に言われたなどであったり、歯科医師の収入低下などから、学生はCBTなどの影響で知識はよく身につけているものの、モチベーションが低いということがあげられた。

そこから、これからの理想的な授業として以下の点を確認した。

- ・基本はPBLチュートリアル教育とし、問題解決型の学習とし、知識、技術、態度を分割して構成し、講義室の教育から、学習者が参加し体験する教育であることを確認した。
- ・知識の暗記だけでなく、心理、社会、倫理、経済、安全など多面的側面から現実にふさわしい行動を実践しコミュニケーションできる、より現実に近いシミュレーションを用いる教育への変化として、PBLチュートリアルと模擬患者（SP）に代表される教育となる。
- ・歯学の授業モデル案については、歯学としての特徴がほしい。 歯科疾患予防が重要であることを認識するとともに、齲蝕予防が可能であることをサイエンスの面から知識および理論を理解するという点は重要ではないかとの意見があった。また、総合的な学習を通じて、学びを可視化し、気づきを与えることが必要。
- ・歯科疾患予防の動機づけとして、歯を失って義歯を入れた老人にインタビューさせるなどして歯を残す価値、予防の必要を実感させる体験が必要ではないか（ロールプレイ）。
- ・コンパクトにまとめる。

齲蝕の予防から今の歯科教育の振り返りができるなど提案してはどうか。

- ・動機づけが現在でも重要であるので、動機付けをねらいとして齲蝕予防にしてはどうか。

(2) eラーニング学習コース：

- ・歯科医師に必要なコンピテンスを明確にした上で、それぞれの必要なコンピテンスに対応した知識、技能、態度の学習コンテンツを作成する必要がある。
- ・コンテンツはコンセプトあるいはファンクションを単位として作成する。コンテンツは教員が作成したものだけでなく、医療機関、研究機関のコンテンツなどを集めたデータベース（リポジトリ）を作成する。
- ・学習成果の評価は、記憶だけでなく理解、応用をテストすることによって行い、コンピテンスの内容に応じて、臨床現場あるいはシミュレーションを用いたアセスメントを行う。

モデル案を確認した結果、以下の意見に基づいて修正することにした。

- ・グローバルスタンダードの方向性で考えてはどうか（統一試験：医者として持つべき知識など）。
- ・授業のモデルとして組み立てる。
歯科医師に必要なコンピテンスを基本としてコンテンツを作成する。

(3) その他

最後に、平成22年度の本協会の事業報告書の抜粋を通じて、歯学分野の授業モデル案の方針を確認し、歯科と栄養とが連携されていない現状紹介が以下のとおりであった。

- ・22年度事業報告の歯学委員会の授業モデルの方針については、1つは、歯科疾患予防の重要性を認識させ、実際の生活の中で患者に予防ができるように指導する能力を身に付けさせるため、齲蝕の予防についてチュートリアル学習を行い、多面的な視点から振り返る学習を行い、患者本位の医療ができる授業モデルとすること（チュートリアルはどここの分野でも行われているが、患者本位の医療ができることを目指すという点は重要であること）、2つは、グローバル化に対応した最新の医療を理解し、医療に反映させることができる能力を身に付けさせるために、世界中の医療サイトを活用してeラーニングできるモデルとすることを角にした。なお、2つめは場合によっては、他のモデルにすることも含めて検討する。
- ・歯科と栄養の関係は重要であるのに現在ではあまり結びつきがなく、例えば、高齢者が歯がないために栄養の分野では食べ物を流動食のようにつぶしてしまう発想になるが、歯科の分野であれば、物を咀嚼できる方法を考えることができる。しかし、両分野での連携がないため、本来、物を咀嚼して栄養を摂取するという流れになっていないことを紹介された。

2. 次回までの課題

授業モデル2件について、上記を踏まえて担当委員が修正版を作成し事前に委員会メンバーリスト宛に送り、各委員が確認する。

3. 次回委員会

7月1日（金）16：00より開催し、授業モデルの中間まとめを引きつづき検討する。